

2015-B

拠出金・基金の  
名称

国際原子力機関原子力発電所等安全対策拠出金

種 別

イヤーマーク ノン・イヤーマーク

【拠出先の国際機関名】国際原子力機関 (IAEA)

【所管官庁担当局課・室名】原子力規制委員会原子力規制庁長官官房総務課国際室

【当該任意拠出金の目的・用途等】

本拠出金は、①福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた我が国の新たな原子力規制への取組等を国際社会と共有し、原子力規制に係る我が国のプレゼンスの向上並びに我が国及び世界の安全保障の確保につなげるとともに、②IAEAの成果を我が国の原子力安全性の向上の検討に継続的に活用することを目的とするものである。

本拠出金を通じて、原子力導入新興国を含む幅広い関係国が参画するIAEAの特徴を生かし、原子力安全基準・規制の策定・見直し等に関する事業、緊急時対策・核物質防護に関する事業、原子力規制の向上に向けた国際協力に関する事業等に参画するとともに、我が国・世界の原子力規制の向上につながる検討に資する情報の収集を行う。

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ユーロ)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率 (%)
平成27年度	379,303	2,709	—	1ユーロ = 140円	0
平成26年度	346,821	2,710	—	1ユーロ = 128円	0
平成25年度	239,805	2,240	—	1ユーロ = 107円	0

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

当該年度について、各事業における代表的な活動の例は以下のとおり。これらの事業では今後も継続的に調査・整理が行われるものであるが、当該年度においても我が国の原子力規制の向上を図るための検討に寄与する成果等が得られたと評価する。

## ① 原子力安全基準の整備等に関する事業

IAEA原子力安全・セキュリティ基準類の改訂プロセスの実施に必要となるシステム整備及び会議の開催並びにそれら成果のIAEA加盟国に対する普及を実施。特に、改訂プロセスを効率化するための複数の安全基準類等の相互関係を確認できるシステム「NSS-OUI」が2016年から使用可能(現在、改良中)となった。

## ② 耐震安全評価事業

2010年から2015年までに実施されたプログラムの成果として、地震・津波等の外部事象に係る参加各国の研究成果を取りまとめた3本のIAEA技術文書を発刊。(今後も、外部事象に係る新規知見・情報を継続的に収集し、IAEA技術文書に取りまとめていく)

## ③ 放射線防護・モニタリングに関する事業

福島第一原発事故の教訓を踏まえたモニタリング手法の提示、放射線モニタリングの作業員用のトレーニングマテリアルの開発等を継続的に実施。